

清里高校では、教育活動を生徒・教職員・保護者・学校評議員がそれぞれ評価し、学校改善につなげています

清里高校では、生徒・教職員による授業評価や保護者・教職員・学校評議員による学校評価を取り入れ、より良い授業をめざすための校内研修や学校改善を行っています。

今回、アンケート調査の一部がまとまりましたので、内容をご紹介します。

【生徒の個人評価】 学習意識の向上が課題

6月と12月に生徒自身が授業に取り込む姿勢などを自己評価するためのアンケートを行いました。

結果として、「授業のために学習・復習・家庭学習を取り組んでいる」と答えたのは全体の2割程度。また、「次の授業で何をするか理解している」「目標や目的・ねらいを明確に理解しながら授業を受けている」と答えたのは3割程度であり、半分がどちらでもない、残りが「できていない」となっています。

結果を見ると、生徒が授業に向かう姿勢の底上げが必要と感じます。こうしたことから、6

月の調査結果などをもとに学習意識の向上を考えた授業改善に取り組んだところ、12月の結果では、よく理解できないところを先生に質問して理解を深めている「生徒が目に見えて増えている」たり、他の項目でも全体的な意欲の向上が見られています。

【保護者からの学校評価】 生活指導の強化が必要

10月に保護者の方を対象にアンケートを行いました。回収率は7割程でしたが、学校で行っている「基礎基本の確実な定着を図るため個に応じた指導の工夫、授業の改善」について、8割の方から取り組みの成果があると評価されました。

また、「進路講習や勉強会、進学相談会、各種模擬試験、資格取得等」ポランテニア活動や地域の行事等への積極的な参加」に關しまして8割から9割の方から取り組みの成果があると評価されました。

清里高校では、進路と教育相談を兼ねた「生き方指導」に力を入れており、生徒の意識や考

えと教員の持つ情報を共有する指導方法、取り組みが評価されたものと考えます。

しかし、生徒の身だしなみや基本的な生活習慣の指導」につきましては、2割強の方から十分との評価がありました。この結果から、頭髪や服装等の身だしなみ、生活態度などの課題解決に向け、指導強化を行っていく考えです。

【教職員の自己評価】 教職員同士の連携強化

教職員も授業方法の分析、学校の評価を行って授業改善・学校改善に努めており、教職員自らの自己評価の結果、「魅力ある学校づくりのため、教職員がアイデアを出し合う」ことに關して、6割以上の教員が改善を要する必要があると答えています。三人寄れば文殊の知恵のことわざのとおり、チームワークづくりも課題の一つとして、改善に努めていきます。

また、生徒に「資格取得等を積極的に奨励し、勉学への意欲付けやライフプランを考えさせ

る」ことに關しては、全員が理解を示し実行していることがわかりました。生徒や保護者からも高い評価を受けており、今後も生徒の意欲喚起を図るための取り組みに努めていきます。

一連の学校評価を受けて見られる成果と課題

これらの調査の結果から、生徒の学習状況が安定し、意欲や意欲の向上が見受けられること。また、教員の授業に対する意識改革により、授業による指導の質の向上が図られています。しかしながら、生徒の基本的

な生活習慣の確立に向けた指導のあり方や、様々な問題解決に向けた協働体制の推進に課題が見えたことも事実です。今後は、課題解決に向けた取り組みを強化しながら、さらなる授業改善・学校改革に取り組みます。

授業評価以外の学校評価の詳細は清里高校のHPで公開していますのでご覧ください。

<http://www.kyosato-hokkaido-c.ed.jp>

この記事に関するお問い合わせ先
清里高等学校
電話 25 2310

自己分析による取り組みにより、生徒自身の意欲向上が見受けられます。授業評価、学校評価の取り組み、そして反省と課題を生かした教育活動は、生徒の学校生活にもより良い影響を及ぼしていると考えます。

その成果の一つとして、進路について意欲的に考えるようになり、各種検定に挑戦する生徒が増えていることがあげられます。

■資格取得状況

【英検】

準2級6名、3級10名、4級3名

【漢検】

準2級2名、3級4名、4級3名

【数検】

準2級1名

【情報処理検定】

2級7名、3級19名

【ワープロ検定】

準2級2名、2級4名、3級14人

【珠算電卓検定】

3級5名